外国語教育メディア学会
LET
九州・沖縄支部だより

第60号
2013年11月1日
LET九州・沖縄支部事務局発行
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1
北九州市立大学 長 加奈子研究室内
TEL 093-695-3249
E-mail: secretariat@jlet-ko.org
編集:田上優子・松崎 徹・事務局

第43回九州・沖縄支部研究大会に参加して

仲山 雄二（荒尾高等学校）

2013年6月8日、初夏の陽気の元、福岡の西南学院大学言語教育センターにおいて第43回九州・沖縄支部研究大会が開催されました。10時の受け付けの後、初めにワークショップがWell 株式会社のご協力の元、「授業におけるiPadの活用」と題し、事前申込制でしたが満員での開催となりました。参加者の中には実際に活用しておられる先生方から、iPadビギナーの方がおられ、私もその初心者の一人でした。操作方法について丁寧にご教授いただいたのち、グループワークで自己紹介を兼ねたフリップボードを作成することになりました。私たちの班では、「弁当男子」の先生がおられ、写真、音声付動画、ネット情報検索等をiPadで瞬く間に行われました。また大型スクリーンですぐにその場で、会場の皆さんとそれを共有できるという手軽さを、多くの歓声とともに楽しく実感することができました。この楽しさを、英語教育を通じて、生徒たちにつなげることができる日を切望したいと思いました。

支部評議員会や昼食をはさんで、開会式が行われ、今大会への思いや来年度の九州での全国大会開催へむけた取り組み、意気込みが、司会や開会、会場校挨拶を務められた副支部長の大津敦史先生（福岡大学）、支部長の島谷浩先生（熊本大学）、そして会場校の西南学院副学長武井俊詳先生から、来年の夏を思わせるかのように熱く語られました。

その後、全体での講演会となり、「中間言語研究への新しいアプローチ:SLAとコーパスの架け橋」という題目で、神戸大学の石川慎一郎先生から、ニュースキャスター顔負けの鮮やかなテンポと口調で御講演いただきました。学習者コーパスについて、まずその前史から中間言語分析をふまえて、国内外の研究を紹介されました。そして石川先生が手掛けておられるアジア圏学習者コーパスとしては世界最大のICNALEについて、その特徴やCIA(Contrastive Interlanguage Analysis)の精緻化をもとに、日本人が多用している省略形(don't, isn't etc.)や日中韓別のフィードバックモデルについてデータをもとに詳しく紹介されました。また、学習者コーパスの教育への応用については、上位学習者の修正過多の傾向を例に、モデル提示よりも明示指導の有効性について語られ、最後に音声コーパスのデータ収集について触れられました。石川先生は、講演の中で常に本題の流れについて、「紹介」され、「確認」され、更に「復習」をされるというスタイルをとっておられ、初学者の私にもわかりやすく、最後まで聞き手を取り込む配慮がなされ、盛大な拍手で講演が閉じられました。

15時から、2教室に分かれて、6つの研究発表と実践報告が繰り広げられました。私も2つの教室に足を運びましたが、いずれも時間いっぱいまで質疑応答がなされるなど、盛会ぶりでした。

シンポジウムでは、大会テーマ「コーパスを

活かした英語教育」と題し、パネリスト兼コーディネーターとして長加奈子先生（北九州市立大学)、パネリストとして、鈴木千鶴子先生（長崎純心大学)、石川有香先生（名古屋工業大学)、冬野美晴先生（西南学院大学）の4人の先生方に御登壇いただき、発表を聞かせていただきました。認知言語学の視点から日本人学習者の学習者コーパスについて話された長先生の発表や、コーパスデータの話し言葉と書き言葉の比較研究を話された冬野先生の発表も、大変興味深いものでした。また、石川先生が発表されたESP教育については、大学へ進学した生徒たちが専門課程でより高次なレベルを目指して英語を学習している様子が分かり、とても参考になりました。鈴木先生は、学生自身に基本動詞を用いた英文を作らせ、それをミニコーパス化され、BNC との結果と比較することで、学生自身の英語と native speaker の用いる動詞と特定語との親和性に気づかせる試みを発表されました。例えばI'm＋形容詞の表現では、日本人学生がhappyを多用したのに対し、BNCではsureやsurprisedがtopの項目に入っている。use＋名詞のメンタル動詞を用いた表現では、日本人学生がcomputerやcarを多用したのに対し、BNCでは、word、time、opportunityが多用されている。私は、教室などで生徒たちに文法を用いて英語を学習させる光景と、ALTなどの紹介する生の英語に生徒たちが直に触れて目を輝かせながら情意的に学ぶ、2つの姿が対照的にふと浮かびました。コーパスを用いることで、より自然な表現を用いて英語を使用することを意識させたり、自然な英語を使用したり受容したりする楽しさを実感させる機会を設けることは、自律的な学習者を育むことに繋がると感じました。

最後に、大津先生が第54回全国研究大会の成功に向けて　九州支部のみなさんへ協力と決意を述べられて、無事閉会となりました。事務局の発表では、参加者総数70名、企業14社より展示協賛を賜りました。本当にありがとうございました。

次回は九州・沖縄支部が全国大会開催のため、支部大会は開催されないとのことですが、来年の全国大会の成功と、次期支部大会の盛会を願ってやみません。



LET第53回(2013年度) 全国研究大会の報告

石井和仁　(福岡大学)

LET第53回全国研究大会は、2013年 8月7日から9日までの3日間、大会テーマ「外国語学習への動機づけを高める仕掛け」を掲げ、文京学院大学本郷キャンパスにおいて開催されました。大会初日は、各種会議とワークショップ9講座が行われ、続く2日目と3日目は、合わせて基調講演2件、研究発表44件、実践報告13件、公募シンポジウム3件、全体シンポジウム1件、コースウェア・ショーケース9件、ポスターセッション8件、賛助会員プレゼンテーション11社、企業展示26社と、充実したプログラムが展開されました。

大会参加者数の内訳は、大会本部の記録によりますと、大会参加登録者数が賛助会員と、当日会員(103 名)も含めて 651 名、その内九州・沖縄支部会員が 24 名、懇親会参加者が 109 名と、関東支部主催の大会としてはまずまずの成功を収めた大会であったと言えるのではないでしょうか。

基調講演 1 は Jill Hadfield 氏 (Unitec, New Zealand) による講演 : "Motivation, Imagination and L2 Identity" で、学習 motivation と学習者 identity の関係性をベースに、有力 motivation 理論に基づく具体的学習実践法を考察したものでした。言及した理論は Dörnyei's Motivational Self System (2009) で、実践のためのキーワードは、学習者が憧れる将来の自己イメージ。その自己イメージの形成、そしてその維持・管理をどのように行うかが語られました。

基調講演 2 は岸本好弘氏 (東京工科大学) による講演 :「ゲーミフィケーションを活用した大学教育の可能性」で、ゲームの楽しさ、ゲームに進んで取り組みたいという気持ちの元である「ゲーミフィケーション要素」を授業にも取り入れて学習効果を上げる試みが語られました。具体的方法として、ポイント加点評価ルールの公開、中間成績の発表と表彰、授業後の感想・質問・要請に対する 3 日以内のフィードバック、グループワークの多様、自発的発言・ユニークな意見等の自己表現の促進、アドバンスト課題、オンデマンド授業、複数の代表学生と教師のやりとりを客観的に聴講する「舞台型授業」などが上げられました。

この公演中のエピソードとして、講演開始後約 40 分が経過した 8 月 8 日午後 4 時 56 分に会場の聴衆のスマホや携帯から一斉に警報音が響き渡りました。筆者はこのとき何が起きているのか、理解できていませんでしたが、それが南海トラフ地震を想定した警報システムの誤報であったことがその後のニュースで明らかになりました。三重県沖の微震と和歌山県内の軽震にシステムが反応したことが原因であったようですが、筆者にとっては地震警報の貴重な予行演習になったと思います。

大会プログラムの最後を締めくくったのは全体シンポジウムで、テーマは大会テーマでもある「外国語学習への動機づけをたかめる仕掛け」でした。3 人のパネリスト : 磯田貴道氏 (東洋大学)・酒井邦秀氏 (NPO 法人 多言語多読)、田中博晃氏 (広島国際大学) が、それぞれ 1. 教科書中心の授業で動機づけを高めるしかけ、2. 英語多読と動機づけ、3. 動機づけを高めるための 3 つの視点というテーマで持論を展開されました。磯田氏は、ペアやグループでの協同学習の原理を活動設計に応用し、活動に楽しさ・面白さを加え、取り組む必然性を生み出すことを提言。酒井氏は、一斉授業の限界と、一人一人の内なる動機をどう活かすかに注目し、田中氏は、自己決定理論に基づく動機づけを高める 3 つの視点 : 1) 自律性の欲求、2) 有能性の欲求、3) 関係性の欲求 から具体的実践例を示し、その効果検証を行いました。

2013 年度全国研究大会会場となった文京学院大学本郷キャンパスは、地下鉄東京メトロ南北線の東大前駅の出口がほぼ大学の入口に直結している大変交通アクセスの良い会場でしたが、2014 年度全国研究大会会場となる福岡大学も文京学院大学におとらず、地下鉄アクセスの大変良い大学として地元では知られています。2014 年度の第 54 回全国研究大会が 2013 年度全国研究大会同様、素晴らしい成功を収めることができるよう会場校の一員として準備に取り組む所存です。



LET2013 年度　理事会報告

竹野　茂　（宮崎公立大学）

2013 年 8 月 7 日に文京学院大学本郷キャンパスにて、LET 全国研究大会に先立って開催された理事会の報告をさせていただきます。9 件の審議事項、5 件の報告事項、1 件の懇談事項、ネット稟議追認事項 3 件について話し合われました。慣例に従い、次回全国研究大会開催担当支部の九州･沖縄支部長、島谷副会長を議長に選出して審議が行われました。

9 件の審議事項については以下の通りです。

１）会長選挙（任期：2014 年度～2015 年度）について

「外国語教育メディア学会会長選挙に関する申し合わせ」が規定する全理事の 3 分の 2 以上の出席があり、次期会長選挙を行った。その結果、第 1 回目の投票で竹内理事 19 票、森田理事 8 票となり、過半数の票を獲得した竹内理現会長を次期会長に選出した。

２）大学入試制度（英語）の改革案について　(会長から)

教育再生実行会議で提案された大学入試制度(英語)の改革案につき、外国 語教育メディア学会(LET)、全国英語教育学会(JASELE)、一般社団法人大学英語教育学会(JACET)が共同で意見表明を行うべきであるとして、3 学会の同意に基づいた案を示すとともに、Web サイトでの公開や文部科学省への陳情などの方法でアピールすることを検討している旨説明があった。このうち、TOEFL などの外部試験を大学の学部・学科に応じて卒業要件として活用することを推奨する提案についてはこれを追記にとどめるべきなどの意見が出され、これらを修正した内容で承認された。この原案は明日の全国総会に提出される。また、会長からは、今後これを他学会に示しながら微調整する方針が示され、微調整の内容および周知の方法を含んで一任いただけるよう要請があり、これを承認した。

３）関連学会との連携について

(本部事務局長から)

・教育関連学会連絡協議会について(総会報告と会費納入)

見上委員より同協議会の概要と結成総会の模様が報告されたあと、会費を納入することが承認された。

・言語系学会連合加盟継続について(意見交換会報告と会費納入)

湯舟理事からの同連合開催による意見交換会の報告と活動内容について報告が行われたあと、会費を継続して納入することが承認された。

４）支部提案事項について　(提案支部から)

・共同発表者の大会発表への出席義務の明確化について (関東支部)

全国研究大会においてプログラムに掲載された共同発表者が発表会場に出席することを求めるか否かについて、大会によって異なる対応にならないよう 学会として明確な規定を作り、発表者に周知することなどを検討してはどうかとの提案があった。こ

れに対し、大会開催時期は校務などと重なることもあり発表件数の減少につながるのではないか、などの意見が出された。審議の結果、現状では発表者が全員 LET の会員であること以外は会則に規定しないことで合意した。但し、この提案について今後も継続的に議論することを確認した。

・全国大会開催負担の平準化（関西支部）

支部負担かけ率(現行 15%)および、本部全国大会負担金(現行 60 万円)をそれぞれ引き上げることで、全国大会開催にかかる各支部負担を平準化する。またこれによって一般の会議場などでも大会を開催しやすくすべきとの提案があった。これに対し、小規模な支部では 5%のアップでも支部の運営に支障をきたす懸念もあるといった意見が出された。この場で結論を出すことが難しいことから、今後も議論を続けることで合意した。

５）編集委員会提案(機関誌編集委員会事務局から)

学会機関誌の「編集委員会内規」を「編集委員会規定」に改訂することについての提案があった。また、この改訂により規定変更の手続きが「編集員会 における三分の二以上の賛成」を必要とするものから「編集委員の三分の二以上の議決を経た後、理事会の承認を得ること」を必要とするものになる旨の説明があった。この変更に伴い、「機関誌編集規定」と「学会会則」に含まれる「編集委員会内規」という文言は「編集委員会規定」に変更されるという説明があり、審議の結果この改訂案を承認した。

６）2012 年度本部事業報告について

(本部事務局長から)

７） 2012 年度本部決算(案)について

(本部事務局長から)

議案 6)、7)について資料に基づいて説明があり、理事会としてこれを承認した。

８）2013 年度本部事業計画について

(本部事務局長から)

９）2013 年度本部予算(案)について

(本部事務局長から)

議案 8)、9)について資料に基づいて説明があり、以下の点を修正したうえで理事会として承認した。但し、予算案支出の部の「宿泊・交通費」項目を 100 万円から 50 万円に修正する。また、「本部事業費」の内訳を「理事会で承認された事業の推進費」としたうえで金額を 100 万円から 150 万円に修正する。なお、大会時の講師招聘等に利用する特別枠については、その趣旨、使途範囲や申請について詳細を詰める必要があるため、継続で議論していくこととなった。

5 件の報告事項については以下の通りです。

１）本部報告（本部事務局長から）

・2013 年度各支部選出本部役員

(本部事務局長から)

・理事数(2014 年度~2015 年度)について

(本部事務局長から)

・2013 年度会員数について

(本部事務局長から)

・2013 年度賛助会員について

(本部事務局長から)

・ID システムネットワーク関連について

(本部事務局長から)

・NewsletterNo.93 の発行と No.94 発行予定（本部担当幹事から）

上記事項について、各担当者から資料に基

づいて説明が行われ、その内容について確認した。

２）各種委員会からの報告（各委員長から）

機関誌編集委員会から(機関誌編集委員長から)

資料に基づいて説明が行われた。

・機関誌第 50 号(2013 年 6 月発行)について、投稿・審査の経緯とその結果および現在の査読者数について報告があった。

・学会賞の選考経過について（学会賞選考委員長から)

資料に基づき、選考経過について報告あり。推薦資料に基づく事前審査が行われたこと、審査の結果、論文賞 1 件を選定したこと、新人奨励賞 については今回該当者なしとしたことが報告された。これに関して、機関誌の審査基準と学会賞の審査基準とは必ずしも一致しないので学会長から推薦する論文の幅を広げてはどうかという意見があった。このほか機関誌編集委員会からは新人奨励賞を推薦するさいの基準を示してほしいという要望や、若手支援の仕組みを検討するワーキンググループを立ち上げてはどうかという意見が出された。なお、会長から、今後、論文賞や新人賞は 1 名の枠に拘ることなく積極的に与えるよう、要請があった。

・メルマガ編集委員会（メルマガ編集委員長から)

資料に基づき、2012 年度の活動報告、2013 年度のメルマガ委員および活動方針について報告が行われた。

・国際交流委員会　(国際交流委員長から)

資料(pp.58)に基づき、2012 年 8 月から 2013 年 7 月までの活動報告が行われた。

３）各支部報告　　(各支部長から)

・ 2012 年度各支部事業報告・決算について

・ 2013 年度各支部事業計画・予算について

資料の内容について確認された。

４）来年度の全国大会開催予定について

(九州・沖縄支部大会実行委員長から)

場所:福岡大学(福岡市城南区)

日時:2014 年 8 月 4 日～8 月 6 日に開催予定

これに関連して、2015 年度以降における全国研究大会の担当支部について、会長より次の通り確認が行われた。

2015 年:関西

2016 年:関東

2017 年:中部

2018 年:関西

2019 年:関東

2020 年:九州

５）その他

・機関誌編集委員会委員長の委嘱

会長指名により関東支部の久保田先生を推薦することが報告された。

次に、懇談事項 1 件の内容は以下の通りです。

懇談事項（会長から）

１）LET の法人化について

法人格を持つことについて他の学会がさまざまな対応を取る中、当学会はこれまでは以前の理事会での議論、2013 年 4 月の確認により法人格を取らない方針を継続してきたが、今後どのような態度をとるかについて意見を交換した。今後、支部長や事務局長経験者によるワーキンググループを立ち上げるなどの方法でこの件に関して引き続

き検討することを確認した。
最後に、ネット稟議追認事項は次の通りです。
ネット稟議追認事項(会長から)
１）JACET からの依頼事項について
２）LET 賞の選考について
３）関連学会からの協賛依頼(日本音響学会)
上記の 3 件についてはすでにネット稟議の際に異議が無かったので承認されたものとしたいとの提案があり、これらを追認した。

以上が、理事会報告になりますが、来年度の理事数は本年度と同じ支部長を含め 4 名です。また、来年度（2014 年度）全国研究大会の担当支部になっていますが、その次は 2020 年度東京オリンピックが予定されている年に、九州・沖縄支部が担当支部になっています。

2013 年度支部総会報告と支部研究部会発足について

LET 九州・沖縄支部長
島　谷　　浩

2013 年度支部総会報告

2013 年 6 月 8 日（土）第 43 回支部研究大会当日に開催された支部総会について、ご報告いたします。

＜議題＞
（１）2012 年度支部事業報告・支部決算報告について
2012 年度支部事業報告と支部決算報告書が報告され承認されました。詳細は、資料①と資料②をご覧ください。

（２）2013 年度支部事業計画案・予算案について
2013 年度支部事業計画案と予算案が提案され承認されました。事業計画の変更点としては、学術講演会またはワークショップを、12 月初旬に開催することになった点です。従来は、学術講演会のみの開催でしたが、本支部のニーズにあった開催形態にいたしました。詳細は、資料③と資料④をご覧ください。

（３）2014 年度 LET 全国研究大会について
2014 年度の LET 全国研究大会は、2014 年 8 月 4 日（月）～8 月 6 日（水）に福岡大学において開催されますが、大会テーマを、「グローバル人材に資するこれからの外国語教育のあり方」にすることが、大津敦史全国大会実行委員長より提案され、承認されました。また、基調講演者、全体シンポジウムのコーディネーター、パネリストについては、以下の方々の招聘が承認されました。

基調講演１：佐藤　学　先生
（学習院大学教授、財団法人ラボ国際交流センター理事）
基調講演２：漆原朗子　先生
（北九州市立大学副学長）

全体シンポジウム
コーディネーター兼パネリスト：
小野　博　先生（福岡大学客員教授）
パネリスト：　宮原　哲　先生
（西南学院大学教授）
北　浩一郎　氏
（LbE Japan 代表取締役社長）

（４）大学英語入試改革案（LET 案）について

TOEFL を大学入試へ導入しようとする自民党案に対して、大学英語教育学会、全国英語教育学会と連携をとりながら、アピールをすることになりました。LET の原案について、支部の意見が求められ、修正意見をまとめて竹内理 LET 会長へ送ることになりました。

＜報告＞

（１）2013 年度～2014 年度の支部役員について

2013 年度～2014 年度の支部役員は、年度末に支部メーリングリストにおいて承認いただいた役員リスト（資料⑤）が報告されました。

昨年度末に、支部役員の染矢正一先生（国際交流委員）とペニントン和雅子先生（支部紀要編集委員）より、委員継続辞退の申し出があり、任期半ばですが、委員の交代が必要となりました。支部内理事会、支部運営委員会において検討の結果、以下の先生方に、残任期間の委員に就任していただくことになりました。

国際交流委員：荒木瑞夫先生（宮崎県立看護大学）
支部紀要編集委員：大薗修一先生（九州産業大学）
評議員：川北直子先生（宮崎県立看護大学）、白坂佳代先生（宮崎県立看護大学）

支部研究部会の発足について

第 43 回 LET 九州・沖縄支部研究大会でのワークショップ「授業における iPad の活用」への関心の高さから、支部内に研究会立ち上げの提案がありました。その後、支部運営委員会におけるネット稟議（8/22～29）により、次のように「タブレット研究会」の発足が承認されましたことをご報告いたします。

名称：タブレット研究会
活動目的：iPad などのタブレット端末を活用した外国語教育の研究と推進
入会資格：LET 九州・沖縄支部会員
代表：川瀬義清（西南学院大学）
事務局：長　加奈子（北九州市立大学）

LET 九州・沖縄支部では、支部内の研究活動の活性化に向けて、研究部会活動を推進させたいと思っております。研究部会の立ち上げに関心のある方は、支部事務局までご連絡ください。

＜九州・沖縄支部 2012 年度事業報告＞

2012 年

4 月 21 日　　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 1 回）

5 月 15 日　　LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 57 号発行

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部評議員会（宮崎公立大学）

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部総会（宮崎公立大学）

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部　第 42 回支部研究大会（宮崎公立大学）

大会テーマ：「ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題」

＜講演＞　講演者：Marcel Van Amelsvoort 先生

（神奈川県立国際言語文化アカデミア）

題　目：Crossing Cultures and Aiding Learning: 105 Years of Treasure Hunting

＜ワークショップ＞

『Ustream の効果的な活用法』　竹野 茂先生（宮崎公立大学）

＜シンポジウム＞

『ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題』

コーディネーター・パネリスト：

荒木 瑞夫 先生（宮崎県立看護大学）

『インターネットで宮崎と海外をつなぐ

–看護大学生の国際ライティング交流–』

パネリスト：

住 政二郎 先生（流通科学大学）

『授業内外の外国語学習を統合する試み』

鈴木 利彦 先生（早稲田大学）

『国際コミュニケーション教育における ICT 活用の実践』

今岡 幸美 先生（神田外国語大学・神田外語学院）

『「仮想世界を利用した実演型英会話授業」の実施

–全学規模・必修科目としての導入までの取り組み–』

8 月 7 日 LET 支部長連絡会・各種委員会・理事会

8 月 7 日～8 月 9 日　第 52 回全国研究大会

会場：甲南大学

大会テーマ：「外国語教育における学習・指導・評価の最前線」

10 月 13 日　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 2 回）

11 月 15 日　LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 58 号発行

12 月　1 日　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 3 回）

12 月　1 日　秋季学術講演会

場所：西南学院大学 2 号館 8 階　大会議室

講演者：小野 博 先生

（福岡大学・昭和大学客員教授，日本リメディアル教育学会ファウンダー）

演題：グローバル化時代で益々重要性が増した英語教育

–モチベーションを高める方策でどこまで学習効果が上がるのか–

2013 年

1 月　6 日　LET 支部長連絡会

場所：大阪ガーデンパレス

3 月　1 日　LET 九州・沖縄支部紀要第 13 号発行

3 月 30 日　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 4 回）

※LET 九州・沖縄支部理事会，運営委員会，研究大会実行委員会，紀要編集委員会，各種研究会，「支部だより」編集委員会，研究プロジェクトは必要に応じて随時開催。

2012年度　外国語教育メディア学会九州・沖縄支部　決算報告書

2013年3月31日

収入の部

項　目	決算額（円）	内　訳			予算（円）	差　額
前年度繰越金	284,750				284,750	0
学会費	672,000	個人会員 @6,000 ×99件	【1件(2009),1件(2011),110件(2012)】	594,000	744,000	▲ 72,000
		団体会員 @6,000 ×13件		78,000		
		学生会員 @3,000 ×件		0		
雑収入	599,094				611,000	▲ 11,906
		1. 展示協賛金	220,000 第42回支部研究大会展示協賛（10社，11区画）		200,000	
		2. 広告掲載料	154,560 支部紀要第12号広告協賛		300,000	▲ 125,440
		3. 寄付金その他	61,000 支部大会開催補助（宮崎市，50,000円），交通費補助辞退（1,000円），支部研究大会WS講師謝礼辞退（10,000円）		1,000	60,000
		4.紀要投稿料	159,000 第12号，第13号支部紀要投稿料		100,000	59,000
		5.学会当日会員資料代	4,500 第41回支部研究大会（1,000円×4名，500円×1名）		10,000	▲ 5,500
		6.利息	34		-	34
支部積立金より繰入	0	支部積立金より繰入			0	0
合　計	1,555,844				1,639,750	▲ 83,906

支出の部

項　目	決算額（円）	内　訳	予算（円）	差　額
支部大会開催費	344,672	第42回支部研究大会開催費（講師謝礼，講師旅費・宿泊費，アルバイト代，ワークショップ資材代，宅配送料，実行委員お弁当代，懇親会補助，講師懇親会会費負担分，支部研究大会準備金）	428,600	83,928
人件費	6,400	事務局アルバイト代	10,000	3,600
印刷費	260,670	支部紀要第12号印刷費157,080円，封筒印刷費　28,350円，第42回支部研究大会発表要綱・プログラム印刷費　60,060円，各種委員会資料印刷等 15,000円	400,000	139,330
通信費	76,901	送料，紀要編集委員会電話会議通信料	100,000	23,099
会議費	90,342	支部運営委員会，紀要編集委員会，支部評議員会，支部大会実行委員会等の開催に伴う経費	100,000	9,658
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000	0
旅費	161,410	運営委員会，紀要編集委員会参加補助費として	200,000	38,590
事務局費	24,888	宛名ラベル，領収書，封筒，PPC用紙，文具等	30,000	5,112
支部分担金	107,550	984,000円×15%	107,550	0
学術講演会	36,040	講師謝礼・交通費，懇親会費（講師分）	60,000	23,960
支部研究プロジェクト補助費	0		0	0
会費徴収委託費	51,754		62,500	10,746
雑費	10,095	送金手数料	10,000	▲ 95
支部積立金	80,000	（2013年3月31日付支部積立金残高：3,011,131円）	80,000	0
予備費	0		3,100	3,100
次年度繰越金	257,122		0	▲ 257,122
合　計	1,555,844		1,639,750	83,906

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長　長　加奈子

以上、相違ありません。

会計監査　林　千晶

会計監査　土持　かおり

2013年度～2014年度　LET九州・沖縄支部役員

名誉支部長
池浦貞彦　（福岡教育大学名誉教授）

支部長
島谷　浩（熊本大学）

副支部長
石井和仁（福岡大学）・大津敦史（福岡大学）

事務局長
長　加奈子（北九州市立大学）

理事
石井和仁（福岡大学）・大津敦史（福岡大学）・島谷　浩（熊本大学）
竹野　茂（宮崎公立大学）

会計監査
土持かおり（鹿児島県立短期大学）・林　千晶（福岡女学院大学）

運営委員（50音順）20名
荒木瑞夫（宮崎県立看護大学）・石井和仁（福岡大学）・大薗修一（九州産業大学）
大津敦史（福岡大学）・柿元悦子（九州産業大学）・川尻　徳（久留米工業大学非常勤）
木下正義（福岡大学非常勤）・島谷　浩（熊本大学）・田口　純（筑紫女学園大学）
武井俊詳（西南学院大学）・竹野　茂（宮崎公立大学）・田上優子（福岡女子大学）
長　加奈子（北九州市立大学）・中島　亨（福岡教育大学）・中野秀子（九州女子大学）
仲山雄二（荒尾高等学校）・古村由美子（長崎大学）・松崎　徹（筑紫女学園大学）
山内ひさ子（長崎県立大学）・米岡ジュリ（熊本学園大学）

評議員（50音順）32名　＊は運営委員を兼ねる
荒木瑞夫*（宮崎県立看護大学）・石井和仁*（福岡大学）・大薗修一*（九州産業大学）
大津敦史*（福岡大学）・奥田裕司　（福岡大学）・柿元悦子*（九州産業大学）
柏木哲也（北九州市立大学）・川北直子（宮崎県立看護大学）
川尻　徳*（久留米工業大学非常勤）・木下正義*（福岡大学非常勤）
坂元真理子（鹿児島工業高等専門学校）・島谷　浩*（熊本大学）

白坂佳代（宮崎県立看護大学）・田口　純*（筑紫女学園大学）・田上優子*（福岡女子大学）
武井俊詳*（西南学院大学）・竹野　茂*（宮崎公立大学）・長　加奈子*（北九州市立大学）
綱　智子（福岡教育大学非常勤）・東矢光代（琉球大学）・中島　亨*（福岡教育大学）
中野秀子*（九州女子大学）・仲山雄二*（荒尾高等学校）・林　日出男（熊本学園大学）
樋口晶彦（鹿児島大学）・古村由美子*（長崎大学）・松崎　徹*（筑紫女学園大学）
水野邦太郎（福岡県立大学）・安浪誠祐（熊本大学）・山内ひさ子*（長崎県立大学）
與古光　宏（九州産業大学）・米岡ジュリ*（熊本学園大学）

学会誌編集委員
林日出男（熊本学園大学）・樋口晶彦（鹿児島大学）・折田　充（熊本大学）

国際交流委員
荒木瑞夫（宮崎県立看護大学）

学会賞選考委員
山内ひさ子（長崎県立大学）

メールマガジン担当委員
田口　純（筑紫女学園大学）・古村由美子　（長崎大学）

支部紀要編集委員
中野秀子（九州女子大学）・金岡正夫（鹿児島大学）・大薗修一（九州産業大学）
森礼子（福岡県立大学）・米岡ジュリ（熊本学園大学）

「支部だより」編集委員
田上優子（福岡女子大学）・松崎　徹（筑紫女学園大学）・事務局

＜九州・沖縄支部 2013 年度事業計画＞

2013 年

4 月 1 日　LET 九州・沖縄支部第８回研究プロジェクトチーム（新規）

テーマ：「英語学習者の自律性を高める Blended Learning の試行−大規模な学習者を対象にした英語再履修クラスの改革−」

研究代表者：大津敦史（福岡大学）

5 月 11 日　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 1 回）

5 月 15 日　LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 59 号発行

6 月 8 日　LET 九州・沖縄支部評議員会（西南学院大学）

6 月 8 日　LET 九州・沖縄支部総会（西南学院大学）

6 月 8 日　LET 九州・沖縄支部　第 43 回支部研究大会（西南学院大学）

大会テーマ：　「コーパスを活かした英語教育」

＜講演＞ 講演者：石川 慎一郎 先生（神戸大学）

題　目：中間言語研究への新しいアプローチ：SLA とコーパスの架橋

＜ワークショップ＞

『授業における iPad の活用』　中村 砂織 先生（Well 株式会社）

＜シンポジウム＞

『コーパスを活かした英語教育』

コーディネーター・パネリスト：　長 加奈子 先生（北九州市立大学）

パネリスト：　鈴木 千鶴子 先生（長崎純心大学）

石川 有香 先生（名古屋工業大学）

冬野 美晴 先生（西南学院大学）

8 月 7 日　LET 支部長連絡会・各種委員会・理事会

8 月 7 日～8 月 9 日　　第 53 回全国研究大会

会場：文京学院大学

大会テーマ：「外国語学習への動機づけを高める仕掛け」

9 月下旬　支部内理事会

11 月 1 日　LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 60 号発行

12 月初旬　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 2 回）

12 月初旬　学術講演会・ワークショップ

2014 年
3 月 1 日　LET 九州・沖縄支部紀要第 14 号発行

2 月下旬　LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 3 回）

※LET 九州・沖縄支部内理事会，運営委員会，研究大会実行委員会，紀要編集委員会，各種研究会，「支部だより」編集委員会，研究プロジェクトは必要に応じて随時開催。

第 54 回外国語教育メディア学会全国研究大会について

期日：2014 年 8 月 4 日(月)～6 日(水)
場所：福岡大学（〒814-0180　福岡市城南区七隈 8 丁目 19-1）
大会テーマ：「グローバル人材育成に資するこれからの外国語教育のあり方」

「研究発表」「実践報告」「公募シンポジウム」「ポスターセッション」の申込期間：
2014 年 2 月 7 日(金)～2 月 28 日(金)を予定しています。
詳しくは大会 HP の準備が整い次第、広報いたします。皆さんご準備をよろしくお願いいたします。

第 54 回 LET 全国研究大会
大会実行委員長　大津敦史

2013年度　外国語教育メディア学会九州・沖縄支部　予算

2013年4月1日

収入の部

項　目	予算額（円）	備　考			前年度予算
前年度繰越金	257,122				284,750
学会費	666,000	個人会員 @6,000	×100件	600,000	744,000
		学生会員 @3,000	×件	0	
		団体会員 @6,000	×11件	66,000	
雑収入	351,000				611,000
		内訳 1.　展示協賛金	200,000	第43回支部研究大会展示協賛	200,000
		2.　広告掲載料	60,000	支部紀要第13号への広告掲載料	300,000
		3.　寄付金その他	1,000	寄付，利息等	1,000
		4.　紀要投稿料	80,000	支部紀要第14号への投稿料	100,000
		5.　学会当日会費	10,000	第43回支部研究大会における資料代	10,000
支部積立金より繰入	850,000	（2013年3月31日付支部積立金残高：3,011,131円）			0
合　　計	**2,124,122**				**1,639,750**

支出の部

項　目	予算額	備　考	前年度予算
支部研究大会開催費	288,200	第43回支部研究大会予算（大会準備金，講師謝礼，講師旅費，アルバイト人件費，情報交換会参加費補助等）	428,600
人件費	10,000	事務局アルバイト	10,000
印刷費	350,000	支部紀要第14号，第43回支部研究大会プログラム・発表要綱等の印刷	400,000
通信費	100,000	送料	100,000
会議費	80,000	支部運営委員会，紀要編集委員会，支部研究大会実行委員会，評議員会等の開催に伴う経費	100,000
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000
旅費	150,000	支部運営委員会，紀要編集委員会等への参加補助	200,000
事務局費	20,000	宛名ラベル，領収書，文具等	30,000
学術講演会・ワークショップ	40,000	年１回	60,000
支部負担金	100,800	本部への支払い　（　0.15　×672,000）	107,550
支部研究プロジェクト補助費	130,000	研究代表者：大津敦史	0
会費徴収委託費	60,000	１人500円×120名	62,500
雑費	20,000	振り込み手数料等	10,000
支部積立金	0		80,000
第54回全国研究大会開催費	700,000	第54回全国研究大会事務局へ	0
支部運営予備費	27,122		3,100
合　　計	**2,124,122**		**1,639,750**

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長　長 加奈子

＊～＊～＊～事務局からのお知らせ～＊～＊～＊

【新会員】（五十音順）

＜個人会員＞

植田 正暢（北九州市立大学）

奥間 隆伸（沖縄国際大学）

長嶺 寿宣（熊本大学）

原 隆幸（鹿児島大学）

細川 博文（福岡女学院大学）

Laskowski Terry（熊本大学）

李 偉（久留米大学）

【2013 年度学術講演会】

以下の日程で 2013 年度学術講演会が開催されます。参加を希望される方は支部 HP より，事前にお申し込みください。なお定員に達しましたら，お申し込みを締め切らせていただきます。

日時： 2013 年 11 月 9 日（土）
15:30 ～ 17:00

会場： 福岡大学文系センター
A814CALL 教室
（http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/）

講師： Prof. Thomas N. Robb
（京都産業大学）

タイトル： Considerations for Implementing Technology in Language Education

資料代：会員　無料，非会員　500 円

※支部 HP より事前にお申し込みください。

http://www.j-let-ko.org/htdocs/?page_id=18

学術講演会終了後，講師の先生も交えて懇親会を予定しております。こちらにも是非ご参加ください。

場所：大名つつじ庵
福岡市中央区大名 2-9-2
福岡共栄火災ビル 1 F

会費：5,000 円（飲み放題込み）

※支部 HP より事前申込み制となっております。

http://www.j-let-ko.org/htdocs/?page_id=18

【第 54 回全国大会】

第 54 回全国大会は，以下の日程で九州・沖縄支部での開催となります。

日時：2014 年 8 月 4 日から 6 日

会場：福岡大学（福岡県福岡市）

【2014 年度支部研究大会について】

2014 年度の全国大会は九州・沖縄支部の担当となっております。その為，2014 年度は支部研究大会を開催いたしません。ぜひ全国大会の方でご発表いただきますよう，お願いいたします。

【支部研究プロジェクト】

今年度の締め切りは 2014 年 2 月末日です。多くのプロジェクトの応募をお待ち申し上げております。詳細につきましては，支部ホームページのプロジェクトに関する規定をご覧ください。

【会費納入のお願い】

2013 年度の会費振り込みのお願いが，登録住所宛に送付されていると思います。まだお振り込みいただいていない会員の方は，お早めにお振り込みいただきますようお願

いいたします（個人会員・団体会員は 6000 円，学生会員は 3000 円)。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力お願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には，学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

＜LET 本部＞　http://www.j-let.org

＜LET 九州・沖縄支部＞　http://www.j-let-ko.org/

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒808-0135　北九州市若松区ひびきの１－１

北九州市立大学　長　加奈子研究室内